

歴史地震研究者の墓をたずねて

林 能成*(関西大学社会安全学部)

§ 1. はじめに

歴史地震学は地震学を構成する分野の中で、古くから研究されてきた分野である。その成果は、地震の繰り返し間隔を推定する際に、もっとも信頼できるデータとして活用されるばかりでなく、100年前の今村明恒の時代から防災面でも重要な位置を占めている。現代の防災行政で多用されている「地震の発生確率」においても、歴史地震学は地震学のどの分野よりも貢献しているといえるだろう。

田山実による「大日本地震史料」と、武者金吉による「増訂大日本地震史料」は歴史地震学に欠かせない重要な成果であるが、菊池大麓をはじめとした地震学外の「理解者」たちの強力な支援によって研究を継続できる体制がつくられたことに大きな意味があったと考えられる。そこで、歴史地震学に関係した人物の範囲を、論文などの直接的な範囲から広げて定義し、その関連人物の墓所の現状を調査したので報告する。

§ 2. 手法

著名人の墓参りは、近年では多数の人に行われる活動となっており、「物理学者の墓を訪ねる」(山口, 2017)などの書籍も出版されている。そのため、墓所に関連した情報をインターネット上のサイトで入手することは容易である。

唯一、武者金吉氏だけは、歴史地震学の世界ではよく知られた存在だが、ネット検索では場所を特定することができなかった。宇佐美(1979)に小平霊園に墓所があることが記されているが、小平霊園が配布する著名人の墓の位置を示した図には掲載されておらず現地でも墓所を確認した。

また、田山実氏の墓所は現時点では見つけられていない。弟の田山花袋の墓所は多磨霊園にあるが、その中には実の名前はなかった。

§ 3. 結果

表1に今回調査した人物の生年月日、死亡年月日、墓地の場所などをまとめた。並びは生年月日が早い順になっている。

明治時代に歴史地震に関連した仕事をした人物は、武士の子息で地方出身者が多い。だが、墓所が出身地にある人物は少なく、田中館愛橘(岩手県二戸市)と寺田寅彦(高知県高知市)の2人のみである。両者は郷土の偉人として現在でも特別に尊敬されている存在であり、二戸市には田中館愛橘記念科学館、高知市には寺田寅彦記念館と寺田寅彦記念室が設けられている。

関谷清景は岐阜県大垣の出身であり、生誕地には「関谷先生誕生之地」と記され、その業績が詳細に記された大きな石碑がある。しかし墓所は大垣市ではなく、療養先であった神戸市須磨区の禅昌寺である。

菊池大麓の墓所は谷中霊園にある。菊池は箕作家から父の生家である菊池家に養嗣子に出ているので、その墓は箕作家の墓地の中にある。墓石には「菊池家累世之墓」と記され、側面には72人分の氏名を記すマス目が準備されたものである。

服部一三と長岡半太郎の墓所は都心に近い青山霊園にあり、どちらも名家の墓が並ぶ一画にある。

この時代を代表する地震学者であった大森房吉と今村明恒の墓は、揃って多磨霊園にある。

ここに紹介した人物の墓は、いずれも現在まで維持管理が続けられていたが、高明な研究者らの墓がすべて維持されているわけではない。地質学者・小藤文次郎の墓は多磨霊園にあったことが記録され写真も多数見つけられるが、2022年に訪問した時点で空き地になっており墓石などを確認することはできなかった。

表1 黎明期の歴史地震学の発展に影響を与えた人々とその墓所

氏名	生年月日	死亡年月日	歴史地震学上の主な功績	主な役職	出身	墓地
ジョン ミルン	1850年12月30日	1913年7月31日	地震学の基礎を構築	工部大学校外国人教師	イギリス	ワイト島/函館市・船見町
服部 一三	1851年3月13日	1929年1月25日	日本初の歴史地震カタログ作成	日本地震学会初代会長	山口	東京都・青山霊園
関谷 清景	1855年1月28日	1896年1月8日	歴史地震史料収集の指導	帝国大学教授	岐阜	神戸市・禅昌寺
菊池 大麓	1855年3月17日	1917年8月19日	地震学関連の組織と人材の充実	震災予防調査会会長	東京	東京都・谷中霊園
田中館 愛橘	1856年10月16日	1952年5月21日	震災予防調査会の設立	東京帝国大学教授	岩手	二戸市・福岡の神葬墓地
田山 実	1865年3月	1907年11月9日	大日本地震史料編さん	震災予防調査会囑託	群馬	※未確認
長岡 半太郎	1865年8月19日	1950年12月11日	震災予防調査会の設立	東京帝国大学教授	長崎	東京都・青山霊園
大森 房吉	1868年10月28日	1923年11月8日	震災予防調査会の運営	東京帝国大学教授	福井	東京都・多磨霊園
今村 明恒	1870年6月14日	1948年1月1日	歴史地震の防災活用	東京帝国大学教授	鹿児島	東京都・多磨霊園
志田 順	1876年5月28日	1936年7月19日	地震学と防災の距離感を再検討	京都帝国大学教授	千葉	京都市・相国寺塔頭大光明寺
寺田 寅彦	1878年11月28日	1935年12月31日	歴史地震研究の再興	東京帝国大学教授	高知	高知市・東久万の墓地
武者 金吉	1891年2月22日	1962年11月7日	増訂大日本地震史料編さん	震災予防評議会囑託	東京	東京都・小平霊園